

自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	0175800291		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム おおきな家		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目3-20		
自己評価作成日	平成23年3月9日	評価結果市町村受理日	平成23年4月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175800291&SCD=320
-------------	---

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月19日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

町内会や地域住民との交流などを通じて、ホームで暮らしている皆様が、お庭に出ることや、お散歩、お祭りなどで、少しでもそれぞれのご家庭で過ごしているような環境づくりに、努力しております。

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

北海道らしい、広々とした田園地帯に囲まれた住宅地に位置する。広い敷地を占める芝生には東屋があり散歩や休憩に格好の場所を提供し、またパークゴルフ場もあり利用者に楽しみを提供している。 町内会に加入して各種の行事に参加し、またホームの夏祭りなどの行事に地域の住民を招くなどして地域と親しく交わっている。地域のボランティアを招いて毎週音楽療法を通じて交流している。 食事中のだんらんを積極的に行ったり家事をしながら語り合うなど、家族的な雰囲気を作ろうと工夫・努力をしている。百人一首やその他のかるた、輪投げ、パズル、体操などレクリエーションを豊富に取り入れ、利用者と共に楽しんでいる。 広い廊下を有効に活用して随所にソファを配置し、屋内の散歩やくつろぎの場として快適な空間を提供している。 すべての受診にはホームの職員が同行し、医師との情報交流を密にして健康維持の対応には深く配慮している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく」「自由に、ありのままに」「暮らしの喜びと自信を」「みんなと共に」の理念を実践するよう、利用者様に向き合い日々、話し合いや確認をしています。	地域密着型の趣旨は直接には表現されていないが、「みんなと共に」という表現の中に込められている。理念は食堂に掲示し、メモして持参する職員もあり、浸透が図られている。唱和などはしていないが、会議などで話題にして実践につなげる努力をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、花いっぱい運動、清掃運動、お祭りなどに参加しています。また毎週土曜日には、ボランティアによる、音楽療法もおこなっています。	町内会に加入して各種の行事に参加し、ホームの主催する夏祭りに地域の住民を招くなどして交流に努めている。日常生活の中で散歩中に挨拶を交わしたり、近隣住民が敷地内を通ることを許すなどして地域に溶け込む努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人の職員がキャラバンメイトの研修を受け啓発に協力する体制があります。職員も、サポーターの研修に参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の理解と支援を得るために貴重な機会などで、報告や話し合いをしている。また、消防職員にも参加して頂き、防火についての話し合いを多くしています。	年に2～3回開催している。町内会長、市の職員、消防署の職員、家族を招いて、利用者の生活状況や最近は特に防災について話し合っている。メンバーは積極的に参加しているが、議題を整えるために日時を要して、開催回数は少ない。	地域の理解と支援を得る趣旨で、多くのテーマを見つけ出して、少しずつでも開催頻度を上げていく工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場主催のサービス調整会議に出席し、町担当者と連絡関係を積極的に築くようにしています。	役所が主催し、地域の福祉、医療関係者が連携を取り合う、サービス調整会議への参加、あるいは研修会に参加して町の担当者との親しい関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、職員も正しく理解するように心がけています。身体拘束をしないケアを日々、努力しています。	年に1回程度、道が主催する研修会に職員が参加し、事業所内に持ち帰って勉強会を開いて職員の理解を深めようとしているが、まだ不十分だと認識で努力している。実際に拘束に該当するような事例は発生していない。	全職員が拘束の可能性のある事例をもとに具体的な検討を行うなど、認識を深める機会を設けることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会に参加しています。内部にて、ミーティングを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、町内の広報誌に制度が記載されていることがあり、その際にミーティングを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご利用者、ご家族等に説明をしています。納得のいかない部分、不安な事などその都度、説明し納得を得られるように努力しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来訪の際、意見を気軽に言ってもらえるような雰囲気作りをしています。意見は本部と相談しながら対応しています。	家族との間で率直な関係が築かれており、実際にさまざまな意見や要望が出されている。意見や要望は可能なものは現場で対応し、問題によっては法人本部へ具申して対応を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を本部は、常に聞く機会を設けています。毎週火曜日、金曜日は、管理者が本部へ報告に行くことになっています。	定例の会議では出されにくいこともあるが、休憩時間など気の置けない場面で率直な意見を聞き出すようにしている。職員の意見は法人本部に通知して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績状況を把握して給与の昇給があります。また、職員同士のレクリエーションの機会もあり、福利厚生の実施にも努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会も多く、昨年は、福祉施設4社合同の職員研修会にも参加しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉施設4社合同研修会に参加した機会を利用して、他事業所との交流も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者、ご家族の思いを把握し、ご本人様に安心して頂けるように努力しています。相談を繰り返して信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の事情や要望に、出きる限りの対応に努めるよう努力しています。困っていること、不安なことを日頃から、お話しして頂けるような雰囲気作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者とご家族のニーズが何なのかを、お話を何度もお聞きして、その必要なサービスを支援するよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と一緒にたまねぎの皮をむいたり、拭き掃除をしたり、職員と共同作業しながら、生活出来るように工夫しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、日々の生活状態を、お手紙にてお知らせしています。病院受診の際にも一緒に同行して頂くことや、来訪時に支援状況について、お話し合いを持っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、馴染みの家具や小物を持ってきて頂き利用して頂いています。以前から、利用している美容室にも行き続けるように支援しています。	友人が時折来訪して利用者と交流している。馴染みの美容室へ送迎することもある。墓参りは本人の希望を家族に伝えて家族に送迎を依頼している。昔懐かしい温泉や店を見に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、茶話会をおこなっています。ご利用者、職員も一緒に色々な会話を持つように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者の入院等にて、サービスが終了した場合などでも、努めて、お見舞いに伺うようにしています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が、職員の声かけに答えてくださるので、希望や意向の把握に努め、支援している。	本人の思いや意向の把握に努めているが、表現の困難な人でも顔色や動作、口数の多寡などで気持ちを察知できている。家族に相談することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の担当ケアマネジャーより情報を頂いたり、ご本人、ご家族よりお話し頂いたりして、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当ケアマネジャーより頂いた情報を参考にして、1日の生活のリズム、体調の変化の把握につとめている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族の意向を聞いて、職員が行うモニタリングも参考にし、カンファレンスにて、職員、ご家族と話し合いをして、新しい介護計画を作成しています。	計画作成担当者が中心となって、本人と家族の意向、職員の把握した日常情報と意見、医師の情報などをもとに介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個々のケア記録を記入している。その記録を参考にしてモニタリングを行い、介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の送迎や、美容室の希望があるときは、個別に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との関わりをご利用者と一緒に深めています。花いっぱい運動、町内清掃運動に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期受診の支援を行っています。入居前の主治医との関係も築いたり、ご家族にも受診の結果報告しています。	かかりつけ医は以前から利用していた医療機関を継続し、すべての診療科において受診の際は職員が同行して医師と直接情報交換し、連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護職員が勤務していないので、個々のご利用者の主治医に相談の連絡を行い状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人、ご家族と情報交換を行い、早期退院に向け、医療機関とも情報交換を行っている。入院中は、職員が常にお見舞いに通い、相談の場を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者やご家族の希望に沿えるように、話し合いを持ち、出きる限りの対応をしたいと努めています。	入居の際にターミナルケアの指針を、文書をもとに説明し納得を得ている。状況が進展した場合には改めて家族や医師と終末の迎え方について話し合いを行っている。希望があれば看取りの介護をする用意がある。	より詳しい、具体的な対応の方法についての文書を作成すると共に、確認書として家族、本人と文書を交換する形の検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員と一緒に避難訓練を定期的に行っている。また、個々の職員が応急手当等の研修会にも参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会、地域住民の皆さんにも一緒に避難訓練に参加して頂いています。	昼の火災を想定した防災訓練を消防署の指導協力と地域住民の協力のもと、年3回実施している。地域住民は利用者を玄関から避難場所まで誘導する役割を担当する。町主催の救急救命訓練講習会に参加している。主要な非常備品は法人本部に備えてある。	夜間火災想定訓練、地震への日ごろからの備えと避難対策、非常時の備品の現場での確保、屋内避難場所の確保の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者には、尊敬の念を持って接し、職員は丁寧な言葉で温かく対応しています。	日々、理事長は言葉遣いに対して留意を促し、正しい接遇について指導している。管理者は望ましい言動のあり方について「こうしたらうだろう」などと、個々に職員と話すようにしている。	職員は思いやりを持ち、優しい眼差しで利用者と接しているが、今後、気になる言葉や接遇での事例検討会を持つなど、職員全体としての更なる取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が、自己決定できるように、日々声かけを多くし、ゆっくりとした、おちついて支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに沿って支援している。大まかな流れはあるが、食事や入浴時間などもご利用者の希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時などに、ご利用者とともに、洋服等を選ぶように、心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒にたまねぎの皮をむいたり、拭き掃除をしたりして頂いています。	法人本部の献立を基本としているが、利用者のリクエストには積極的に応え、好みの物を提供する機会が多く、おやつは手作りをメインとしている。利用者は野菜の下拵えなどできることを一緒に準備している。畑の収穫物を食卓にのせたり、誕生会や季節行事食、外食などを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の個々の記録にて、状態を把握し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、昼食後、夕食後に、うがい、歯磨きを行うよう声かけしています。就寝時には、入れ歯を毎日洗浄を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者個々の排泄表にて、排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っています。	一日の排泄状況を個々に記録して排泄のリズムやパターンを把握し、トイレでの排泄を促している。本人の表出するサインを掴み、声かけ誘導を適時行って失禁を防いでいる。衛生用品の使用頻度が少なくなった利用者もいたり、夜間はポータブルも併用して排泄しやすい環境を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く食べるように工夫したり、個々に応じた下剤を使用したりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月曜日から金曜日が入浴日となっているが、必要に応じて土、日曜日にも対応しています。体調をみながら、長湯にも対応しています。	水・土・日曜日以外の日の午後の時間帯で入浴を設定しているが、利用者の状況に応じてその都度対応している。身体状況に応じた入浴福祉用具を利用したり入浴剤を使用するなど、安全面やゆとり感に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の状態に応じてお昼寝をして頂いたり、居室のドアを個々に応じて、開けたり閉めたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が日々薬の内容を確認できるように、薬ファイルがあります。薬の処方が変更された場合、連絡ノートにも記録します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	仕事後のあとかたづけや、居室内のモップがけ等の役割に参加して頂いています。季節に合わせた行事を楽しみにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園やホームの庭にある東屋にて日光浴をしています。また、ドライブなどで気晴らしをしたり、ご家族との外食の機会をサポートしています。	遠方のドライブは、白鳥見学やお花見、栗山ダムなどを訪れている。天候の良い日は毎日散歩に出かけるようにしている。芝生に出てのんびりしたり、畑の作物を眺めたり、東屋での一服も楽しみながら、個々に合わせた外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者のご家族がお財布をご本人にお渡ししています。お金を使うことは、忘れてしまいますが、お金があることの安心感に配慮して、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の電話を取り次いだり、ご本人の電話を取り次ぐ支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間などの共用空間が広く明るいので、ソファに座って外の景色を見ることができます。また、小鳥や観葉植物がご利用者の安らぎを生みます。	ユニットそれぞれの玄関はスロープを設置して身体機能に配慮がなされており、飼育されている小鳥や観葉植物もあり潤いを感じられる。広い廊下は真夏の避暑スペースになったり、冬場の歩行訓練にも役立っている。ダイニングとリビングが分けられた居間も広さがあり、思い思いに過ごせる空間である。トイレ2ヶ所は左右対称に手すりが設置されるなど工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを3カ所配置しています。気の合ったご利用者同士にて楽しく会話できるスペースを工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人の慣れ親しんだ物を多く持ち込んで頂き、心地よく生活して頂けるように支援しています。	居室にはクローゼットや大型収納庫が設備され、筆筒や冷蔵庫、仏壇などが持ち込まれている。衣類は本人の生活スタイルに合わせて整えられていたり、家族の写真や趣味の物を飾り、安心して過ごせる空間となるよう家族とも相談しながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にスロープを設置し段差をなくし、安心して車イス等の出入りを行えるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	0175800291		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム おおきな家		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目3-20		
自己評価作成日	平成23年3月9日	評価結果市町村受理日	平成23年4月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175800291&SCD=320
-------------	---

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月19日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

「東館ユニット」に同じ

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの運営理念「ゆったりと楽しく」「自由に、ありのままに」「暮らしの喜びと自信を」「みんなと共に」を実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りへの参加、当ホームの夏まつりやイベントなどに町内の方々を招いています。毎週土曜日には、ボランティアによる、音楽療法なども行われています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「キャラバンメイト」の研修へ参加した職員がいるので、職員を通じ認知症の啓発をおこなっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の外部評価を受け、どこ部分ができているのか検討し、町内の消防職員にも、参加していただき、「防火」についての話し合いを多くしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の勉強会に積極的に参加し、良い関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の研修会に参加しており、全員理解している。現在、身体拘束の事例は、ありません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を、虐待防止の研修会に参加する機会をもうけ、十分理解し、防止の徹底に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加していますが、特に事例はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分に説明をしておりますが、不安や疑問点などは、その都度説明し理解、納得をいただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、提案については、法人本部がいつでも対応しており、それらを運営にも反映させております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、ミーティングの際や、本部への連絡時にいつでも対応できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力、実績、勤務状況を本部が把握し、話しをしながら、やりがいなどをみだし又、給与等にも反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネジャー受験対策教材を会社負担で提供したり、外部の研修にも業務の遂行に無理の係らない範囲で、おおいに進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4社合同の勉強会に参加した際に、他の福祉関係者との交流をする機会をもちました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご利用者のニーズをフェースシートを利用し不安を取り除いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望などに応え、その都度対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	徐々に馴染めるように家族と相談しながら、アセスメントしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりと楽しく自由に、ありのままに、くらしの喜びを提供している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでは、家族の方々がいつでも来訪できるように、手紙などでも状況を報告しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が以前から使用していた、家具や、衣類などを入所の際にお持ちしていただいております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レクなどを通じて皆様と一体になる様、努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了されても、ご家族の方が来訪され、状況報告を受けたり、介護支援の相談をされたりいたします。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	発言や言語に障害がある方に対し、YES、NOで答えられる質問にしたり、ときには、メモなどに書いて頂いております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートやご本人のお話し、ご家族の方のお話しを参考に今までの生活、サービス利用の経過などを把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3度の食事とおやつ、バイタルチェックは決まった時間に行うが、その他のことは、各自の自由に過ごしてもらっております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用開始に際しては、ケアマネジャー及びご本人、ご家族の情報を基に計画を作成し、その後の経過を見ながら、本人の意向、職員の情報などを取り入れながら作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にノートを作成し、日々の様子やケア内容などの情報を職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生じた課題やニーズを職員間で話し合い、単一的な解決方法を取らないよう柔軟に取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や病院、理容室などの協力を得ながら、皆様が安全で楽しく過ごせるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度、定期受診にご本人と同行し、医師からの結果を職員やご家族へ報告しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はおりませんが、職員間で話し合い、病院等に相談しその都度、適切な受診ができるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけの病院との連携を取り、情報交換やご家族を交えた今後の相談などを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に口頭で看取りを行うことをご家族やご本人に説明しています。入院の段階になった時にご家族や医師と終末期のあり方について、話し合いをもっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、応急手当、対応の研修会に参加しており、理解している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は、消防の方々の指導により、避難訓練を実施しております。その際、町内の方々にも参加していただいております。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調やなれならしい言葉を使用しないよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中でご本人の意思を尊重し、その訴えに対応できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴などの時間決めてはいるが、声かけをして拒否された場合は、無理をせず、ご本人の訴えを第一と考慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室などの協力を得て、散髪していただいたり、その日に着る衣類をご本人と一緒に選んだりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間の献立は決まっているが、いただき物の食材により変更したり、おやつなどをご利用者と相談しながらきめています。テーブル拭き、配膳など状況に合わせて手伝っていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事摂取量の記録、水分量の記録は全てチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には、ご本人の力で行っておりますが、ご利用者の状況に合わせて部分介助など行い、清潔の保持に努めております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつからトレーニングパンツへ変更し、自力による排泄を心がけています。失敗がある場合などは、介助し支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や歩行運動、体操、レクなどで、便秘を予防しています。また、便秘になった際には、医師とも相談し薬の処方をしていただいております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には、ご利用者とゆっくり会話し入浴が楽しめる様に心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静かに安眠できるよう、音や光、室温などに気を配り、休息していただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬について、処方箋をもとに、職員に説明し、理解に努めています。その後の症状や変化なども記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や配膳、テーブル拭きなど状況に合わせて手伝っていただいております。暖かい季節は、畑の作物の収穫など、勉強させていただきながら、気晴らしなどしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物の希望があれば、付き添いながら外に出かけ、途中近所の方が声をかけてくださったりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来るご利用者には、お金を所持して頂き、買い物等出来る様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に合わせて支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かにゆっくりと過ごせるよう、音、光、室温等に気を配っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どこにでも自由に出入り出来るようになっており、思い思いに過ごして頂いております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を入居時にお持ち頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ見守りとし、ご本人の自由、意思を尊重しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム おおきな家

作成日：平成 23年 3月 31日

市町村受理日：平成 23年 4月 5日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議の議題を整える為に日時を要してしまい、開催回数が少ない。	運営推進会議の開催頻度を少しでも上げていく。	地域の理解と支援を得るための貴重な機会なので、会議で取り上げた検討事項や懸案事項を、次回の会議の議題としたい。	1年間
2	6	身体拘束の対象となる具体的な事例を職員全員が理解し周知徹底がされていない。	身体拘束の具体的な事例に関し、理解浸透できるようにミーティングを行いたい。	身体拘束の勉強会やミーティングの実施をさまざまな機会に行い、身体拘束の認識を深めたい。	1年間
3	36	ご利用者様の人格を尊重し丁寧な言葉で温かく対応が行えているが、更により良くしたい。	日々の言葉使いや、言動のあり方についての対応を深めたい。	ご利用者様と接する中で、気になる言葉使いや接遇での事例検討会の機会を多く持つ。又、言葉の禁句集等を作りたい。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。